

1 研究主題

確かな学力を持ち、よりよく生きようとする、健康で心豊かな生徒の育成

2 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

生徒が自律して社会で生き、創造性を伸ばし、豊かな人生を送るためには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育てることが大切である。新学習指導要領が目指す学力観である①基礎的・基本的な知識・技能の着実な定着 ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成 ③学習意欲や学習習慣など主体的に学ぶ態度の育成が重要である。

(2) 学校目標から

本校の学校教育目標は、「変化に対応でき 確かな学力を身につけた 健康で心豊かな生徒の育成」である。また、めざす生徒像の中にも「正しく判断し、思いやりと感謝の心が持てる生徒」「目標を持って、最後までやり通す生徒」とある。

これからの複雑な社会の変化に対応するためには、「確かな学力」と明確な目標を持ち、粘り強く困難に立ち向かう「健康で」「豊かな」心を持つ必要がある。そうすることで生徒自身の可能性を広げ、「よりよく生き」ることができるようになると思われる。

これらから、「確かな学力」を身につけ「よりよく生きようとする」生徒の育成が課題である。

(3) 生徒の実態から

本校の生徒は、おっとりとして、穏やかな生活を送っている。指示されたことはきちんと果たし、級友と力を合わせて学校行事などを盛り上げる。さらに、多くの生徒が部活動に参加している。

一方で、農村地帯に居住していても集団遊びを通じて得られるような体験は少なく、小学校時代から少人数の集団で過ごすことが多いため、一度人間関係がこじれると、なかなか修復が難しい面がある。また競争意識も薄いので、挫折や困難に立ち向かう強い気持ちに欠ける。

昨年度の全国学力状況調査、学力テスト、学校評価アンケートなどの結果を見ると、本校生徒の学力は平均よりもやや上回っているが、学年や教科による差も大きく、いくつかの課題も見える。学習時間の低下が見られ、予習・復習など学習習慣の確立が必要であることが明らかになった。

以上のことから、日々目標をもって生活し、良好な人間関係づくりをしながら、よりよく生きようとする生徒を育成するために、上記の主題を設定した。

3 研究目標

基礎学力の充実を通して、よりよく生きようとする生徒を育成するための指導のあり方を明らかにするとともに、学力向上を目指す。

4 研究仮説

(1) 各教科の授業の中で、家庭学習やドリルなど基礎学力の定着のための方策を工夫すれば、確かな学力を養うことができるであろう。

(2) 学び方や学習習慣確立のための方策を工夫すれば、学習への興味・関心が高まり、課題解決の達成感を得られるだろう。

(3) 家庭との密接な協力・連携を図れば、学習環境が整い、学習意欲が高まるだろう。

5 研究の概要

(1) 研究内容

① 各教科での基礎学力の充実を目指し、授業や指導法の工夫に取り組む。特に生徒の実態に合わせたドリルや家庭学習の進め方に関する指導法を確立する。

② 計画的・継続的な学習習慣を確立するための方策を確立する。

③ 学校と保護者が協力・連携し、教育環境の工夫・改善に取り組む。

(2) 研究計画

月	内 容
4	・研究計画の立案 ・研究推進委員会 ・教科部会 ・領域部会 ・学年部会
5	・教科部会 (年間指導計画の見直し) ・(校内授業研)
6	・第1回校内研修 ・(校内授業研)
7	・教科部会 (1学期の反省) ・領域部会 ・(校内授業研)
8	・第2回校内研修
9	・所長・管理主事訪問 ・(校内授業研)
10	・授業錬磨の公開日 (全教科展開) ・(校内授業研)
11	・第3回校内研修 ・(校内授業研)
12	・2学期の研究の反省 ・(校内授業研)
1	・研究推進委員会 ・町研研究のまとめ作成
2	・1年間の研究のまとめ
3	・「研究のまとめ」発行

(3) 授業での取組

- ① 学び合い学習の充実を図る。
 - ・ 一昨年度の研究から、「学び合い学習」を取り入れる際の設定のしかたや、ルールづくりが必要であることがわかった。そこで、本年度も引き続き「学び合い学習」を取り入れることで、さらに内容が深まる時機と効果について研究を行う。
- ② 校内授業研究
 - ・ 各教科、1回以上校内授業研究(要請訪問)を実施する。
 - ・ 授業展開した日の放課後、研究授業についての反省会を行う。
 - ・ 研究授業展開時には、職員は自習体制を整えて必ず参観する。
- ③ 「ちばのやる気」問題の活用
 - ・ 「ちばのやる気」評価問題を活用し、その後の授業に生かす。県平均に達していない単元や領域については、フィードバックして再度指導し、確実な理解を目指す。

(4) 授業外の取組

- ① 家庭学習習慣の確立
 - ・ 各教科で基礎的・基本的な知識・技能の定着をねらう副教材などを利用し、家庭での課題とする。また、学習方法がわからない生徒のために家で学習できる方法を紹介し実践させる。
 - ・ 「こだまノート」を活用し学習方法、時間の使い方について指導する。
 - ・ 学年で統一した家庭学習の課題を設定し、毎日取り組むよう指導する。週ごとに教科を国語→数学→英語とローテーションさせる。
- ② 朝の会でのチャレンジタイム
 - ・ 火曜日の朝の会の前に、①で取り組んだ課題についてのテストを実施し、ローテーションしていく。
- ③ 補習学習
 - ・ ②の小テストで合格点に達しなかった生徒は、当日の放課後、学年ごとに補充学習や再テストをする。不明な点があれば、個別指導する。
- ④ 検定への挑戦
 - ・ 漢検・英検・数検への積極的な挑戦を推進する。既に漢検については、1学期に町内一斉漢字検定が実施されており、年間3回の受験料及び問題集代は町負担であるが、2学期・3学期も積極的に受験するよう勧める。英検・数研については、受験料が家庭負担であるが、保護者会などの機会を通して、保護者にも積極的な受験を勧める。
- ⑤ 朝の読書
 - ・ 昨年度に続き、チャレンジタイム以外の日は朝の読書タイムを設定する。
- ⑥ 1分間スピーチ
 - ・ 朝や帰りの会での1分間スピーチを継続する。テーマについては、学年ごとに設定する。
- ⑦ 家庭との協力・連携
 - ・ 学年便り、保護者会などで、家庭学習の必要性や具体的な方法について伝え、家庭の協力を仰ぐ。